

## 健診受診者よりも未受診者に低栄養状態の人が多い —血清アルブミン値を用いない低栄養状態の スクリーニング法の必要性—

低栄養状態の診断は血清アルブミン値によることが推奨されているが、「費用や人手がかかる」、「健診受診率の低さ」などの理由で、すべての在宅高齢者の血清アルブミンの採取は困難である。介護予防に向けては、多数の高齢者の低栄養状態を把握する方法の開発が必要と思われる。そこで、より簡便に低栄養状態の人を把握するために、質問紙に入れた複数の指標の中から、血清アルブミン値が低い人を推定する上で有用かつ妥当な指標の検討を行なった。

### <研究方法>

対象は、2003年に愛知県在住の要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者に実施した郵送質問紙に回答した5715人である。そのうち、市町村から個人情報保護の上で得られた1462人の同年度の成人健診血清アルブミン値データを用いた。(介護予防の観点から血清アルブミン値3.8g/dl以下を低栄養状態とみなした。)

### <研究結果>

血清アルブミン値の平均は4.2g/dlで、3.8g/dl以下の人は100人(6.8%)であった。質問紙による低栄養リスク者は、実際の血清アルブミン値が低い人に多く見られた(図1)。また、健診受診者より未受診者に多くみられた(図2)。

### <研究の意義>

基本健診受診者は質問紙回答者の25%程度と少なく、受診者よりも未受診者に低栄養リスク者が多かったことから、血清アルブミン値を用いない低栄養状態のスクリーニング法の必要性が示唆された。

### 学会報告

中出美代, 平井寛, 吉井清子, 近藤克則: 血清アルブミン値を用いた低栄養指標の検討. 第64回公衆衛生学会(札幌) 2005. 9

### 連絡先

中出美代(愛知学泉短期大学 食物栄養学科 講師)

(E-mail) nakade@gakusen.ac.jp

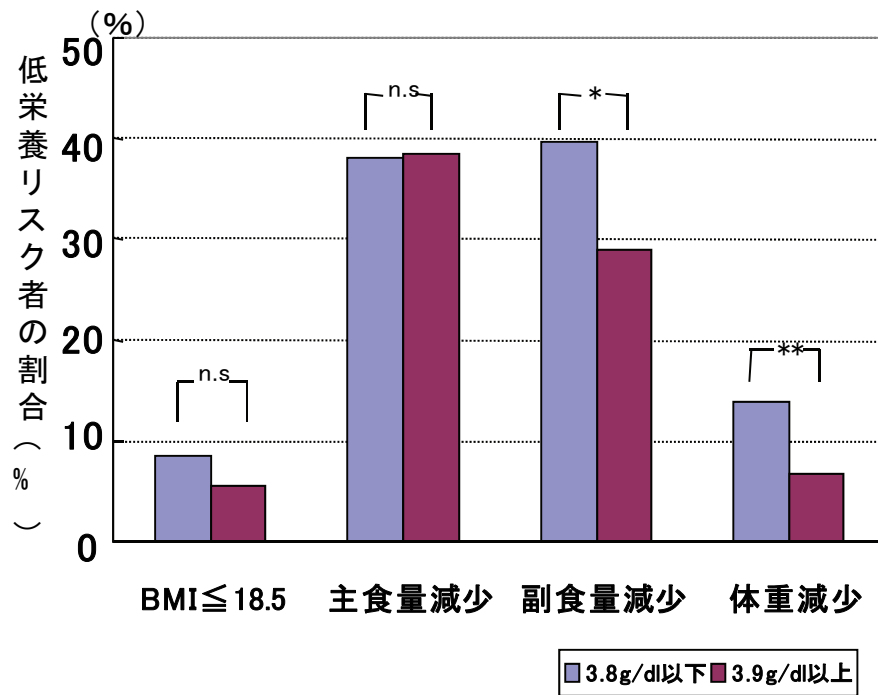
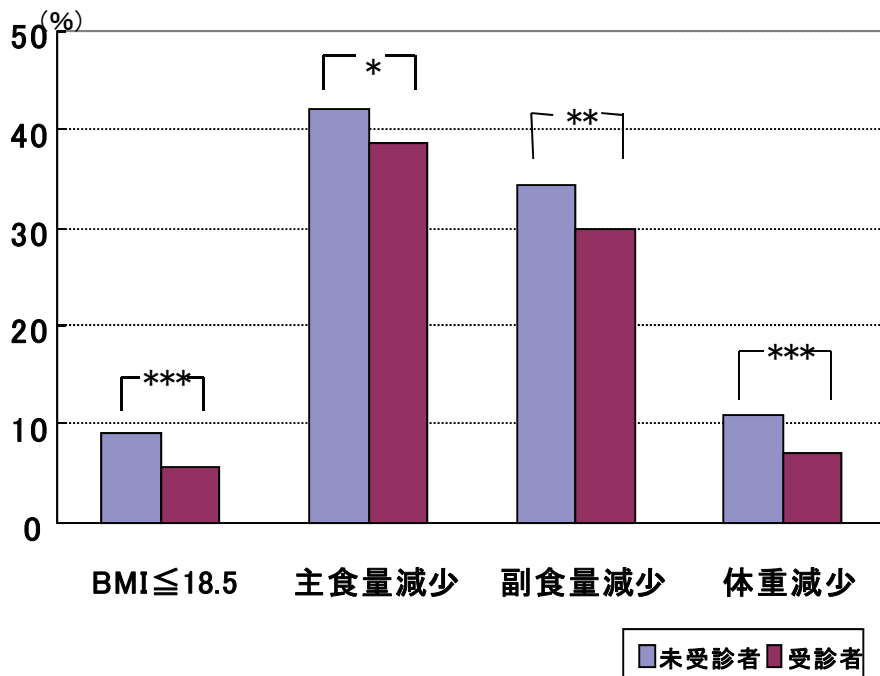


図1 血清アルブミン値と低栄養リスク指標との関連  
(質問紙による低栄養リスク者の割合)



\* p : < 0.05    \*\* : p < 0.01    \*\*\* : p < 0.001

図2 健診受診の有無と低栄養リスク指標との関連  
(受診者：血清アルブミン値あり、未受診者：なし)